

Wakayama Castle Criterium

30km

小石祐馬が積極的にアタック 明後日からの本戦に弾みをつける



レース期間：5月6日

距離：30 km

UCIカテゴリー：和歌山城クリテリウム CRT

参加チーム：19チーム（プロチーム：1、コンチネンタルチーム：16、クラブチーム：2）

出走選手数：110人

JCL TEAM UKYOメンバー：小石祐馬、ニコロ・ガリッポ、小林 海、石橋学、増田成幸、鎌田晃輝

JCL TEAM UKYO監督：マヌエーレ・ボアロ

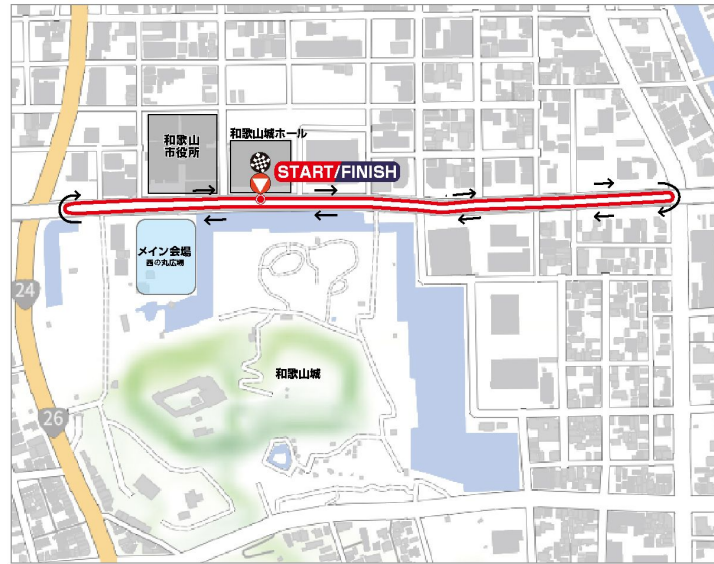
レース公式サイト：<https://www.tourdekumano.jp/>

JCL TEAM UKYO公式サイト：<https://jcl-team-ukyo.jp/>

Live：<https://www.youtube.com/@cycling-ch/streams>

Photo：<https://x.gd/yz2Hm>

Total Distance
30.0km 1.5km×20lap



和歌山県と三重県を舞台に開催される UCIアジアツアー2クラスのステージレース、ツール・ド・熊野がよいよ開幕。ゴールデンウィーク最終日となる 5月6日(火)にはエキシビションレースである「和歌山城クリテリウム」が和歌山市中心部で開催され、沿道に詰めかけた多くのファンを沸かせることとなった。

選手たちにとっては 180度ターンを2箇所含む全長約 1.5kmのコンパクトな周回コースを 20周回する合計 30km、時間にして40分前後という足慣らしの一日。クライマーやオールラウンダー中心のメンバーで熊野の総合優勝とステージ優勝を第一目標とする JCL TEAM UKYOはこの日、できるだけ厳しい展開に持ち込み、スプリンターチームの作戦を崩すべく積極的な走りを披露した。

天気予報は持ち直し、薄曇りのドライコンディションでレースが動き出す。すぐにドウシャン・ラヨビッチ(セルビア)を勝たせたいソリューションテック・ヴィーニファンティーニが集団先頭を固めたが、積極的に走ることを目標にするJCL TEAM UKYOは、まずはニコロ・ガリッボが、続いて小石祐馬がアタック。同じ思惑を共有するライバルチームも積極的に逃げを続けたものの、すぐに折り返しコーナーがやってくる短時間レースゆえに、どのアタックも集団を引き離すには至らなかった。



UCI
CONTINENTAL
TEAM



9周目には全日本チャンピオンジャージを着る小林海を含む落車が発生したものの、幸い大きな怪我はなくニュートラル措置(クリテリウムにおいて落車やトラブルが起きた際にレースに復帰できるルール)で集団復帰。フィニッシュに向けてスピードアップを続ける集団が、豊臣秀長によって築城された和歌山城を横目に「けやき大通り」を駆け抜けた。

最終的にどのスプリントチームも主導権を握れないままラスト 1周を駆け抜け、最終 180度コーナーを先頭で立ち上がったエリオット・シュルツ(オーストラリア、ヴィクトワール広島)をフィニッシュ直前でパスしたラヨビッチが勝利した。

アタックでレースを厳しいものにするという目標を実行し、レースを沸かせた JCL TEAM UKYOの選手たちは、一人も欠けることなくフィニッシュ。明後日から始まるツール・ド・熊野本戦に向けて順調な滑り出しを見せている。

小石祐馬のコメント

「30キロのショートレースで平坦でヘアピンコーナーが 2つあるコースで圧倒的に集団スプリントになる可能性が高いコース。スプリンターがいない僕たちはハードな展開に持ち込もうとトライしたがスプリントに持ち込みたいチームが多く不可能でした。明後日から始まるツール・ド・熊野に向けて良い準備が整いました」。

和歌山城クリテリウム RANKING

- 1.ドゥシャン・ラヨビッチ(セルビア、ソリューションテック・ヴィーニファンティーニ)
- 2.エリオット・シュルツ(オーストラリア、ヴィクトワール広島)
- 3.ネイト・ハッデン(オーストラリア、セントジョージ・コンチネンタルサイクリングチーム)
- 39.ニコロ・ガリッポ(イタリア、JCL TEAM UKYO)

JCL TEAM UKYO ならびにこのレポートに関するお問い合わせ: KATAYAMA PLANNING株式会社
田村 遼(広報) Mail: tamura@kplanning.co.jp TEL: 090-44551-4021
増田 深雪(広報) Mail: m-masuda@k-planning.co.jp

